

# 遠山病院 臨床研修プログラム

## (地域保健・医療)

〒514-0043 三重県津市南新町17-22

電話番号 059-227-6171

FAX番号 059-225-3967

# 遠山病院研修プログラム

## 研修目標

- 1 患者・患者家族と医師の良好な関係を確立し安心な医療を行なう  
当院の基本理念（信頼され愛される病院に）に適った医療を行う  
当院の院是（遠山病院の職員は患者さまの人権を尊重してご理解とご諒解をえて医の倫理にもとることなく医療にあたります）に適う医療を行う
- 2 チーム医療の構成員として他の医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、放射線技師、検査技師、臨床工学技士、MSWや事務職員など全てのスタッフと協調して医療を行う
- 3 常に臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価する能力と、該当患者への適応を判断する習慣や指導医の医研を的確に求め、他の医師や第三者の評価をふまえ正しく判断する姿勢を養う
- 4 他の医療機関や介護施設と信頼される連携を行う

## 経験目標

- 1 一般内科疾患の診断から治療（入院の決定や他科・他院への紹介も含む）
- 2 緊急を要する患者さんのトリアージと初期・緊急治療
- 3 健康診断2次検査
- 4 病診連携、病病連携のため、診療情報提供の礼儀、紹介状、介護保険主治医意見書の作成、ソーシャルワーカーとの支援体制
- 5 入院患者さんを担当することにより適切な診察、的確な診断手順や治療の選択と慎重な経過観察を行い、その記録、患者さまへの説明、家族への説明を実施する経験
- 6 院内の医療事故防止や感染予防、褥瘡などの予防とその対応

## 日常的な検査の手技や救急救命処置の経験

- 1 検尿・検血・生化学検査・生理検査・放射線検査など日常の基本検査  
臨床検査を理解し的確な検査オーダーを結果の判定を行う
- 2 当院医師が日常行っている検査や治療手技の経験  
消化器関連：上部消化管透視、注腸透視、上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査、腹部エコー、**ERCP**、経皮経肝胆管造影内視鏡的止血療法、内視鏡的治療（**EST** など）ステント留置、内視鏡的胃瘻造設等、

- 循環器関連 : 心エコー検査、頸動脈エコー検査、TMT、ペースメーカー  
心嚢穿刺
- 呼吸器関連 : 気管支鏡検査、人工呼吸器の管理
- 腎疾患 : 腎生検、内シャント（人工血管移植）、  
種々の透析療法、CAPD
- 処置検査等 : CVC 挿入、気管内挿管、腹腔穿刺、腹水ドレナージ、  
胸腔穿刺、胸腔ドレナージ、骨髄穿刺検査、  
骨髄生検、腎生検、肝生検、甲状腺穿刺生検、  
リンパ節生検、経皮的血管拡張術

## 勉強会などへの参加

1. 症例検討会 毎週金曜（新入院患者の症例紹介）と抄読会
2. 画像診断読影会 毎週金曜（三重大学放射線専門医と症例検討）
3. 病診連携研修会 隔月1回（地元医師会会員との連携・医学研修会）
4. 剖検会 隔月1回（三重大学病理医と剖検症例検討）
5. 院内症例報告 適時（学会発表前の検討・発表後の報告会など）
6. 各科カンファレンス（内科、外科 症例検討会）
7. 安全管理研修・感染管理研修・職業倫理研修など院内研修会への参加

## 週間勤務スケジュール

|   | 8:30      | 9 | 10 | 11 | 12 | 13        | 14 | 15 | 16 | 17     | 18 | 19 |
|---|-----------|---|----|----|----|-----------|----|----|----|--------|----|----|
| 月 | 病棟診療      |   |    |    |    | 病棟診療 医局会  |    |    |    |        |    |    |
| 火 | 外来診療      |   |    |    |    | 手術または検査   |    |    |    |        |    |    |
| 水 | 外来診療または検査 |   |    |    |    | 手術または検査   |    |    |    | 抄録・勉強会 |    |    |
| 木 | 外来診療または検査 |   |    |    |    | 病棟診療 症例検討 |    |    |    |        |    |    |
| 金 | 透析診療      |   |    |    |    | 病棟診療 症例検討 |    |    |    |        |    |    |

## 遠山病院の概要

設置主体 特定医療法人 同心会

標榜科目 内科、消化器科、外科、呼吸器科、循環器科、肛門科、放射線科、7科

附帯施設 透析センター（内科）、健診センター

病床数 197床 一般病床（病棟3単位 内科系 2病棟 外科系 1病棟）  
健診センター 10床  
透析センター 60床

職員数 280名

うち医師数 22名（常勤）内科14名 外科7名 放射線科 1名

昨年17年4月には創立50周年を迎え、地域住民に密着した民間病院として「信頼され愛される病院に」という基本理念のもと、患者さまの立場にたった優しさと思いやりにあふれる病院づくりを進めています。

常に患者さまの利益を念頭に置き、あらゆる医療行為が、患者さまの満足という尺度で評価される臨床現場の意識向上に努めています。

良質な医療を提供すると共に、接遇面も含めた地域の民間病院としての総合的な医療姿勢を経験していただけると存じます。

また平成12年には県下の民間病院では初めて（県下病院では第8番目）

日本医療機能評価機構の認定病院となり平成18年9月には更新審査を受けました。

内科・外科共に創立以来地域の方々の信頼を得、多くの患者さんのホームドクターとしての役割も担っています。また一方、地域の診療所の医師との勉強会も行い、診療姿勢をご理解していただき、入院紹介や検査依頼など紹介患者も多い病院で地域連携を大切にしています。

## 診療体制

### 1. 内科診療体制

内科診療では常勤医14名で一般内科医として総合診療、ホームドクターとしての医療を行い、プライマリ・ケア診療を実践すると共に、更に各医師が subspecialty を持って診療を行っています。専門性としては、循環器、呼吸器、消化管、血液、腎・透析、腫瘍・外来化学療法及び非常勤であるが糖尿病、内分泌、神経内科の専門外来を行っています。

内科救急は一次、二次救急を担っておりますが脳卒中の外科的治療や新鮮心筋梗塞など救急心臓カテーテル検査を必要とする患者さまは三次救急として三重大学附属病院等に依頼しています。

年間内科入院患者数は約1600例で疾患は全般にわたっています。

透析患者は約210名の維持透析を行い年間透析導入例は約20例です。

循環器疾患では PTCA については他医療機関に転送していますが、日常業務としては専門医が心電図、ホルター心電図、ホルター血圧等を解析し、心エコー、頰動脈エコー、ABI、PWV 検査、自律神経検査、TMT、ペースメーカー挿入と管理等の日常業務（一部は臨床検査技師と）行っています。

呼吸器疾患では心肺機能検査、気管支鏡検査や睡眠時無呼吸症候群検査を行い、肺炎や呼吸器不全症例も多く慢性呼吸不全の管理や在宅酸素療法も行っています。

消化器疾患では外科と共に上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査、ERCP、腹腔鏡検査や内視鏡的胃瘻造設、内視鏡的治療を行なっています。また放射線医による腹部アンギオ、TAE（RFA は三重大学放射線科に依頼）等を日常業務として行っています。

血液疾患は悪性リンパ腫をはじめ、白血病、MDS、骨髄腫等の化学療法や種々の血液疾患の治療を行い、骨髄移植等は三重大学附属病院に依頼しています。

胃癌や大腸癌の消化器癌や乳癌等の化学療法も内科と外科で協力し外来・入院治療を合わせて行っています。

腎疾患・透析療法では腎生検から内シャント、人工血管移植、PTA、CAPD、エンドトキシンショック、重症膵炎はじめ各種の吸着療法や血漿交換療法を行っています。

その他非常勤医による糖尿病、神経内科や脳神経外科の専門外来を週 1 回各々の専門医によって診療しています。

## 当院の地域医療（内科系）において習得できる事項

1. いわゆる風邪症候群から咽頭炎、扁桃腺炎、尿路感染や胆石症、胆嚢炎、食道炎、胃潰瘍、胃癌や大腸癌、肺癌など各種の患者さまや鉄欠乏性貧血からリンパ腫や白血病などの血管疾患、高血圧症、糖尿病、高脂血症不整脈、狭心症、慢性腎不全や急性腎不全など一般内科疾患全般にわたって初診時から鑑別診断を考え、診断にたどり着くまでの方策、治療の決定、実施、評価までを身に付けることが可能である。
2. 健診後の二次健診による消化器疾患や腎疾患など診断・治療や高血圧症、高脂血症、糖尿病、肥満など生活習慣病の予防医療
3. 急を要する疾患の病態を的確に把握する。  
救急治療を要する患者さまは救急車だけでない場合も多くあり的確な診断が要求される。

- ① 肺炎や虫垂炎、憩室炎、胆石・胆嚢炎、腹膜炎等々の急性腹症、敗血症の急性細菌性感染症やウイルス疾患の診断から治療
- ② 上部・下部消化管出血等の診断から緊急内視鏡的止血治療や手術療法
- ③ 種々のショックや、低血糖や肝性脳症などの代謝性意識障害が薬物中毒によるものからアダムストークスや癲癇、脳血管性の意識障害を的確に診断し治療する。また保存的治療かどうかの判断し必要のあるものは脳外科治療等高次の医療機関に転送する（脳出血、クモ膜下出血、新鮮脳塞栓などは転送）
- ④ 心不全、気胸等の急性呼吸不全や慢性呼吸不全の急性増悪の診断と治療や急性心筋梗塞や動脈瘤破裂・解離等の緊急治療を必要とする疾患の診断

## 2. 外科診療体制

外科では、腹部消化器外科、肛門外科、乳腺外科などを専門とし、地域の一次救急、二次救急を担う病院として腹部救急疾患、外傷等の救急外科症例が豊富です。

年間の入院手術件数はおよそ550例あり、外科医として初診の問診時から、入院、手術、退院にいたる一連の診療のすべてに関わることも地域の第一線病院としての特色といえます。また癌末期の入院患者も多く、終末期医療も当院の使命のひとつとなっています。

さらに当院の特徴として、内視鏡検査件数が多いことが挙げられます。

上部、下部内視鏡検査件数は、合わせて年間約6000例あり、内視鏡的粘膜切除術や止血術などの症例も豊富で、その大半を外科医師が行っています。

最新医療機器として、64列マルチスライスCT、MRI、血管造影装置、ハイビジョン内視鏡システム、超音波内視鏡、超音波診断装置、マンモグラフィ等の画像診断機器が充実しています。

当院の地域医療（外科）において習得できる事項

1. 外科の年間入院患者数は約1000人で、主治医として多くの患者さまの診療にあたる中で、患者さまや家族の気持ちを理解し、患者さまの人格を尊重して誠実で献身的な医師として素養を培います。
2. 患者さんや家族への、正しい病状説明ができるように努めます。
3. 外科疾患への医学的知識を深め、的確な問診、初期診療の技術と診断能力を養うとともに、採血、注射、留置針、中心静脈カテーテル挿入等の基本手技を習得します。
4. 腹部救急疾患における、鑑別診断、検査計画、手術適応の診断能などを養います。
5. 入院手術症例を通じて、輸液管理、経腸栄養を含めた栄養管理の知識を深めます。

また手術の助手として、縫合、糸結びに始まり、切開、剥離等の基本的な外科的手技の習得に努め、技量に応じて小手術からヘルニア、虫垂炎などの手術を執刀します。

6. 上部および下部の内視鏡および消化管透視、腹部超音波検査などの基本的な知識を深め、症例の経験を重ねます。
7. 毎週、放射線科と合同の画像診断検討会を行い、CT、MRI、マンモグラフィーなどの画像診断の知識・診断を深めます。
8. 毎週金曜日に術前検討、問題症例の検討会を行い、討論に参加します。

### 3. 外来診療

#### 1. 一般外来診療

外来患者は、のどの痛み、微熱、倦怠感、食欲不振、体重減少、下枝の浮腫、発疹、頸部の小さなリンパ節腫大、幻暈、失神、頭痛、咳、胸の痛み、息苦しさ、動悸、呼吸困難、血圧が高い、関節腫脹、関節痛、しびれ、歩行障害、抑うつ、不安、不眠、胸焼け、悪心、嘔吐、便秘、下痢、腹痛、黄疸、腰痛、口渇、糖尿、蛋白尿、血尿、頻尿、排尿痛等々の種々の訴えで受診されています。

大病院で総合内科に受診される方から、専門性を要求される疾患を有する患者さまや当院だけでなく他施設からの二次健診のため受診、及び地域の診療所からの精査依頼や入院紹介、更には介護施設からの診療依頼など幅広い患者さまが受診しています。

#### 2. 救急医療（二次救急医療機関）

救急車により搬送される患者さま以外に地域の診療所の医師や介護施設からの緊急搬送患者さまが受診されます。

## MEMO

### 遠山病院 臨床研修についての問合せ先

担当 庶務課 別所義樹（事務長）

[電話] 059-227-6171（代表）  
059-224-7069（庶務課直通）  
内線 170

[FAX] 059-225-3967

[メールアドレス] [hc-bessyo@toyama-hp.or.jp](mailto:hc-bessyo@toyama-hp.or.jp)